

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 24 年度第 4 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 24 年 12 月 3 日 (月) 午後 3 時 00 分から午後 6 時 00 分まで		
開催場所	前原暫定集会施設 1 階 A 会議室		
出席者	委員	<出席者：11 名> 植村会長・加藤委員・竹内委員・清水委員・多田岳人委員・多田典子委員・佐野委員・鈴木委員・勝又委員・簗口委員・北澤委員 <欠席者：3 名> 松村副会長・渡辺委員・波多野委員	
	事務局	小野ごみ対策課長・三浦ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・今井ごみ対策課長補佐・井上・八方・中村・竹内・佐藤	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開会 第 3 回審議会会議録の確認について 2 議題 (1) 平成 25 年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵募集作品の審査 (2) 報告事項 平成 24 年度可燃ごみ処理状況等について (3) 「平成 25 年度一般廃棄物処理計画 (案)」について審議 (4) その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 25 年 1 月 21 日 (月) 中間処理場事務所棟研修室 1		

審議過程（主な発言等）

植村会長	<p>開会</p> <p>先日、郵送された第3回廃棄物減量等推進審議会の会議録について、事務局から修正説明して頂きたい。</p>
今井課長補佐	<p>(修正内容説明・修正案配布)</p>
植村会長	<p>本日の配布資料について確認をお願いします。</p>
今井課長補佐	<p>(配布資料の確認)</p>
植村会長	<p>では、議題（1）平成25年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵募集作品の審査を行う。投票の結果、最も票を集めた作品を最優秀とし、平成25年度のごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵として掲載することにする。集計結果において2位から6位となった作品は、優秀作品として裏表紙に掲載する。また、同数の票を集め、最優秀または優秀作品が重複した場合は、事務局の判断に委ねることにする。では、投票用紙に番号を記載して投票して頂きたい。</p>
(委員 各位)	<p>(投票)</p>
植村会長	<p>続いて、議題（2）報告事項 平成24年度可燃ごみ処理状況等について事務局より報告をお願いします。</p>
三浦課長	<p>(資料「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」に基づき説明)</p>
植村会長	<p>前回までは本報告事項については、色々意見を頂いた。詳細については、指摘頂いたことを考慮して、今回配布された資料では日数の記録等工夫が見られる。ただ今、事務局から説明があったとおり、本報告事項は市及び市議会と本審議会との情報の共有を図るためになされているものと考ええる。委員の皆様におかれては、質問等もあろうかと思うが、会長としては、各種廃棄物の分析を伴う審議においては、前回までに示された各委員の意見指摘を反映させた適切な資料を提出することを事務局に求めることとし、本審議会の主要な任務である平成25年度一般廃棄物処理計画の審議を優先させて頂こうと考えている。この報告事項については、前回、種々指摘があったので、その指摘に沿って可能な限り対応して頂いているかと思う。年度が違えば日数も異なってくる等、前年度との単純な比較は難しい。今後、適切な資料の作成及び提出を事務局にお願いし、これで次の審議に移りたい。</p>
佐野委員	<p>やるのかやらないのかはっきりさせて欲しい。折角時間を掛けて審議しても検討出来る範囲で検討するという表現で良いのか。会長が納得するのであればそれで良いが、やるのかやらないのか、やらないのならやれない理由をはっきりさせるべきだ。</p>

審議過程（主な発言等）

植村会長	種々の指摘があったので、それらについての実施・実行の可能性については、データの制約もあるだろうが、事務局のほうで検討していると思うがその状況はいかがか。
今井課長補佐	集約を終えているものとそうでないものがある。前回までに出して頂いた指摘・意見については、出せるデータ、出せないデータが出てくると思うが鋭意努めていきたい。
植村会長	指摘頂いた項目ごとにどういう状況かという報告を頂ければ、そういう資料の取りまとめ等もお願いしたいが、次回までに出来るか。
今井課長補佐	承知した。
植村会長	<p>では、次回までに指摘頂いたことに関して、どういう対応が可能か、可能なところまで指摘を有効活用する対応をお願いしたい。</p> <p>続いて、議題（3）平成25年度一般廃棄物処理計画の審議に入る。前回、新たに実施する施策に係る項目の審議を終えているので、引き続き充実させる施策及び継続させる施策に係る審議に取り掛かる。なお、本日の予定としては、減量の目標数値に係る審議まで終えたいと考えている。</p> <p>なお、前回提出された資料は、現年度施策との差異が認められにくい形式であったため、私から事務局に指示し、資料の形式を改めている。</p> <p>では、本日の審議に係る資料並びに変更点等について事務局から説明をお願いします。</p>
今井課長補佐	（資料：平成25年度一般廃棄物処理計画ごみ減量達成に向けた施策移行表（修正版）・清掃事業の概要（速報版）を説明）
佐藤主任	（資料：平成25年度一般廃棄物処理計画減量目標値及び計画処理量を説明）
植村会長	では、審議に入る。まず、充実させる施策、それから継続させる施策の順に進行していきたい。
加藤委員	審議に入る前に資料の提出をお願いしたい。去年も一昨年もそうだったが、例えば去年は、市民一人一人が地道に取り組むことにより、24年度の燃やすごみの減量効果の推定に係る算出資料が出ている。こういう資料は、私たちが具体的に検討する際に勉強になるので提出を求める。次回でも良い。
今井課長補佐	本年度については、そういった資料は用意していない。今回についてはあくまでも努力目標という形で数値を定めたいと考えている。各種の施策の積み重ねで減量効果を果たしていくということと、現行施策を更に定着させ安定化させていくということをもって減量の裾野を広げていきたいという施策を考えているので、今のところそういったものは用意していない。

審議過程（主な発言等）

加藤委員	現在、用意していなくても作って頂きたい。
北澤委員	今年度、5%減量目標を達成出来ない見込みであるにもかかわらず、25年度は新たに5%減量出来るのか。これまで減ってきたのは、どういう理由で、又はどういう施策を打ってその効果があって減ってきたという分析しないと、次に効果が段々無くなって来れば、新たな施策を打っていかなければならないので、積み重ねを上手く分析していかないと、新たな目標を立てるのは難しいのではないかと。
加藤委員	一つ一つの施策について一応の目標を出しているの、今回も出すことによって私たちの取組みの基準にもなるかと思う。
佐野委員	市のほうは新しいことをやるよりも、今までやってきたことを普及させて、施策の有効性をもっと深めていきたいということを行っていると思う。そこをきちんと理解して議論すべきである。
植村会長	この審議会で、具体的にどこまで減量が可能かを正確に算出すると、5%の減量目標は達成出来ないかもしれない。そういうようなことをしっかり精査するところまでやるのか。今回の提案は、現在の施策を引き続き継続して強化するという事で減量効果を果たしていくという提案だと感じている。しかし、そういう提案であったとしても、効果が過去にどういうことでどうなったのかという経過を確認して、努力目標だとしても、その状況からどこにごみを減量する可能性が残っているのか見ないとはいっきりしない。そういう意味では、施策の充実・継続を今回も謳っているわけだが、その施策によって、どの辺りをターゲットにしているのか審議の中で指摘すべきことだと思う。先程の資料の提出については、よろしいか。
今井課長補佐	皆さんの指摘は十分理解出来るが、ここで数値を出すということについては、慎重に対応したい。今まで出した資料等を精査の上、会長と調整して資料の形を決めたい。
加藤委員	計画にあるように、市民・事業者と協働して、一層の減量・資源化を進めることは、私たちの責務だと書かれている。具体的な目標を持って具体的に活動したいと思っているのでよろしくお願いいたします。
清水委員	一般廃棄物処理計画の達成状況という中で、色々なデータを見ると減少率が厳しくなっている中で、本当に5%減量が達成出来るのか。その責任はごみを減らさない市民が悪いのか、適切な施策を打たない市が悪いのか、微妙である。資料がないと、そういうことを判断出来ないという意見だと思う。確かに数値をしっかりと出すには時間が掛かるというのは理解出来るが、少なくとも傾向として何が問題になっていて、どこを減らそうとしているのか、ここに出てくる施策というのは何をターゲットにやっているのか、まずは挙げてもらいたいのだが、どのように考えているのか。

審議過程（主な発言等）

<p>今井課長補佐</p>	<p>今後、ごみを資源化していく又はこういった処理へ移行させていくという考え方は、施策に示しているように現状入っていない。まずは、3R（発生抑制・リユース・リサイクル）の中で、市としては、まず発生抑制の観点に意識を持って頂きたい。その為に今後、ごみ減量啓発のDVDのフル活用を図り、使用可能なくつ・カバン類の拠点回収等を継続し、ごみになるものならないもの、ごみを出さない日常生活のスタイルを構築して頂きたい。そうした意識浸透を図るための施策及び広報活動に傾注していきたいというのが、25年度の主なものになる。だから、どの廃棄物をターゲットにどの位の量を減らすこと、という形の観点での目標設定にはなっていない。あくまでも実現可能な目標値というよりも、市民の皆様にも今後またゆまず不断の努力を継続して頂くための目標として5%という数値を継続して掲げたいと考えている。</p>
<p>植村会長</p>	<p>目標の中では、発生抑制を特に重視して、そのところでの対策ということで、修正された施策を提案している。何かを目標としてやっていくのか、それとも全体の効果を上げるための現状の施策をより強化するという対応なのか、どちらかということで事務局より回答が出たのだが、こういう状況になっているのは、削減の効果が段々悪くなってきており、これ以上は大きくは望めないかも知れないし、そういう数値的な限界に近付いているところはあるかと思う。しかし、現状の資質的なライフスタイルによるごみを発生させないという方向での強化、これは意味があると思っている。具体的な計画として今回提案されたのは、量的なところよりも質的なこれまでやってきたことをほぼ継続することになっており、それを強化して、取り組みの全体的な効率を高めるというような提案だ。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>小金井市は正常なごみ行政の状態ではないという認識を持たないといけないと思う。24年度中に一定の実現可能な方法を出すとのことだが、それが出ないうちに色々なことが審議出来るのか。それを今ここで議題にするのは難しいと思うが、廃棄物の処理をどうやっていこうか、ということが分かった上で審議しているのか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>現在、ごみ処理基本計画も出来ていない状況である。どういう状況であったとしても、困難であればあるほど、小金井の計画は出来るだけ具体的に示して、市民に分かり易く提起して働き掛ける必要があると思う。</p>
<p>植村会長</p>	<p>出来る限り具体性を持った提案として、この審議会の答申としてまとめられることが望ましい。そういう意味では、今回出されたそれぞれの施策については、その施策を強化することによって減量目標5%に向けて質的に改善をするという提案をしているが、曖昧な状況もあるかと思う。そこで数値に関しては精査して頂いて、可能な限り検討するということが良いか。</p> <p>それでは、充実させる施策並びに継続させる施策について更に、皆さんからご意見を頂きたい。</p>

審議過程（主な発言等）

佐野委員	その前に、25年度の減量目標可燃系ごみ5%減量というこの文章は活きるのか。今の段階で、これを終わったものとして、次の段階に行くのであれば、これを認めるという意味か。本当に減量する努力目標だと市民も行政も共有した数字だとここで決めるのであれば、この審議会の委員の責任である。
植村会長	事務局から指摘があったように、減量目標である。
佐野委員	目標であるのは分かるが、今年5%の減量目標で5%実現の可能性がないのではないか。
植村会長	どの程度の実現可能性があるのかをある程度考慮して、来年度も同様に5%というものを努力目標ということで出すには、効果を実現出来るかどうかというところの積算というのがあったほうが望ましい。
竹内委員	5%という数字自体が、他市にお願いしている以上は、対外的に配慮が必要で、小金井市はやる気があるんだということを見せるためにも5%としているのかどうか。しかし、実際に不可能なものを出して、5%といっても空回りしてしまう。空回りするのでは、全く意味がないし、これからやろうとしている実現可能なものまで破壊してしまう。もう少し努力すれば到達するという範囲でチャレンジしていかないといけない。これまでは新しい施策をどんどん出して、それを積み重ねてごみを減量してきた。しかし、この施策を見ると、新しい施策といってもピンとこない。広報的な話ばかりだ。
佐野委員	小型電子機器の処理についても、ごみを減量するのが目的ではなくて、資源の再利用が大きな目的だ。だから、それをやっても5%にはいかない。
加藤委員	25年度は新しい可燃ごみの減量施策はない。去年の施策を続けるということであれば、2.5%ぐらいしか達成出来ないということだ。
佐野委員	今までやっていた施策が、その一つ一つの項目で市民が100%実施していたのなら減量目標の達成は難しいと思うが、市民が実施している率が10%とか20%だったとしたら、もっと努力すれば効果が出る。その辺のことも検討しないといけない。市が考えていることをもう少し説明してもらって、理解したほうが良いと思う。
加藤委員	昨年度の場合は、剪定枝を資源化することによって効果があったが、来年度は新しく何百トンも何十トンも剪定枝を回収出来る見込みはないと思う。新しく落ち葉も全部回収するというのであれば、プラスアルファ出来るが、今まで通りでは回収しきっているのではないかという感がある。生ごみ処理機についても去年並みにはいかないと思う。ただ単に去年やってきたことを続けるだけでは5%は達成しないと考える。

審議過程（主な発言等）

植村会長	<p>佐野委員の指摘のように、これまでやってきたことが全部出来ていることは恐らくないだろう。しかし、それを強化することが今回の施策の重点であるという印象がある。だから、過去の施策をいかに強化するかということで、その対応策については色々なアイデアを出す余地があると思う。</p>
佐野委員	<p>それは充実させる施策のところに書き込まれている。新しい施策を考えるのではなくて、それを普及していく、もっと深く市民の協力を得るということをやろうという要するに啓発運動だ。そのため、新しい施策について説明されているが、これを啓発運動が主だと分類すると良い。もっと啓発運動をすることによって、5%減量に近付ける。乾いた雑巾を絞るような活動をしていかなければならない時代になっている。</p>
清水委員	<p>乾いた雑巾を絞るというようにすると、絞れなかった分は、やらなかった人の責任になる。市民の努力が足りないからこうなったとなるが、それは違うと思う。努力の余地はまだあるにしても、それなりの効果を出すには、市民だけの努力だけでは足りないということを実感して頂いて、それなりの施策を打つというのがこれまでの話だと思う。皆やらなかった市民が悪いという話になってしまうことに懸念を抱く。</p>
佐野委員	<p>私は基本的にそうだと思う。行政が言って物事が解決するのなら、お金がふんだんにある時はそれで良いと思うが、これからはそうではない時代だ。</p>
清水委員	<p>生ごみが問題視されているのであれば、生ごみだけ分別収集して減らしていくというやり方で、毎年その効果は出るのではないかと。</p>
加藤委員	<p>今年の施策は、市民の理解と協力がなければほとんど何も動かないくらいのことだと思う。確かに市民は一層の努力をする必要があると思うが、限界に近づいているという感じもする。ごみ処理基本計画では決めてあったが、全然手が付けられていない生ごみの分別収集というものは、これから現状を突破する有力な施策だと思う。市民の理解と協力がなければ出来ないが、市の施策が大きな部分を占めている。直ぐ今年度からというのは難しいかも知れないが、重要な検討課題だと考える。</p>
鈴木委員	<p>今、市民の皆さんにもっと努力して欲しいという意見があったが、前回見学に行って自分で見て確かめてごみに対して意識が変わったので、見学に行く等、草の根運動ではないが、市民の意識のレベルアップしかないと思う。一人一人にどうやってごみに対して意識を持ってもらうか、考えた方が良いのではないかと。発生抑止力になるような皆さんに訴えていくような方法を議論して頂きたい。</p>
多田典子委員	<p>今日の資料でも23年度の剪定枝は数値が増大しているのは分かる。そのところを市民に告知しているとは思えない。一袋で済んでしまうような人は、時間もないということで燃やすごみで出しているかもしれない。</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>だから、もっとやり易いようにとか、これだけ減ったということをアピールする唯一のところだと思うので、そういうところが告知の一つではないか。</p> <p>また、生ごみについても、処理機を利用したらこれだけ減った、電気代が掛かるけれど続けて下さいとか、今年の予算はこれだけあるから声を掛けて下さいとか、様々な言い方はあると思う。ペットボトルの分別意識が国民に浸透したように、誰もが出来るようになるには、相当時間が掛かる。まだ生ごみの水を絞るとかの段階まで行かない人もたくさんいると思う。生ごみを出したいし、学校に持って行きたいが行けない人がいるとなれば、少しでも生ごみだけを回収するとか、生ごみの水を絞るとか、まだまだ努力する必要があるかと思う。</p>
佐野委員	<p>剪定枝のやり方も工夫すると面白いことが出来るかと思う。今、剪定枝を出したら直ぐ市民の目の前から無くなってしまう。それがどういう風にして何をされているか分からない。昨年の審議会で学識経験者の方が各自の家で剪定枝を処理する方法もあるのではないかという発言をされていた。自分の目の前でそういうことをやることによって、自分たちで処理が出来る。剪定枝の処理で年間に2～3億掛かっているのか。そういう意味で剪定枝が無くなったから燃やすごみが無くなったと喜んでいて良いのか。本質的な問題は何も解決していない。</p>
今井課長補佐	<p>受付と収集運搬を含めて委託経費としては、約3,000万円位だ。</p>
佐野委員	<p>もし出来るのであれば、市民の前で処理をすると良いと思う。先程の鈴木委員の発言にもあったとおり、先般、中町の施設に見学に行った。今はペットボトルのラベルを剥がして出すというのが、全ての面でプラスになっているという事実があったら、それは市民にお願いすれば良いことで、何で市民に遠慮するのか。何でも行政が行政がと言って解決する時代ではないということ認識する必要があると思う。</p>
植村会長	<p>市民が自分たちの中で出来ることをもっと徹底すべきである。ペットボトルのラベルは剥がそうと思えば直ぐ剥がせる。</p>
佐野委員	<p>なるべく剥がして下さいとなっているのは、昔はペットボトルのラベルにミシン目が入っていなかったから取るのは大変だったが、今は取れる。後工程でコストが掛かり、出来てきた減量になるものの品質が落ち、高く売れない、そういうことを考えたら、市民に理解してもらえば良い。</p>
鈴木委員	<p>学生のアパートでは、ごみの出し方が全然なっていないと聞いている。小金井にはアパートがたくさんあるが、大家さんに徹底的にお願いして意識してもらい、住んでいる人たちにアタックする方法はないのか。</p>
植村会長	<p>今、指摘頂いたこれらを具体的に進める上で、更に考慮すべきことは多々あると思う。ここに具体的に出すことにはならないかも知れないが、今言</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>われた対応策を審議会としてどこかにまとめて、今後、啓発運動で大家さんのこともあるかも知れないし、また、家庭の水切りの促進とか色々なことがあるかと思う。それらについての対応強化の啓発運動、ここに掲載しているものはそのまま進めていくが、更に気が付いたことがあれば、まとめて提案をするということで進めたいと思う。</p> <p>先程、清水委員から、現状の市民の責任でやるべきことと新しい施策として何か具体的な効果が出せるような工夫がないものかという提案があったが、今回、新しい提案がない状況であり、今までやってきたことを継続させるということだ。くつ・カバン等の拠点回収やオリジナルキャラクター等も24年度に新しくやってきたことを継続させる。また、25年度には新しい提案ということで、リユース食器の貸し出しを行うことや、従来不燃系ごみで集めていたものの中から小型家電を別途に取り扱うという施策は、一歩前進であろうかと思う。ここでは、25年度で継続及び充実させる施策が出ているので検討する。目標については、5%が提案されているが、数値を精査の上、減量効果等がどの程度ということを考慮しながら、数値目標については次回最終的な判断をする。提案された内容についてこの継続項目と充実項目についてここで確認して、更に追加出来ることがあればということ審議したい。</p>
加藤委員	<p>今日は、新しい施策を提案するというよりも、ここにある施策の補強をというか、こうすればもう少し効果が上がるのではないかということで話したい。</p> <p>集合住宅、特に単身者の分別は悪いので、管理者や所有者が非常に苦労しているということである。西東京市では、ごみ指導員が色々な取り組みを行っている。集合住宅の管理台帳をパソコンで作って管理したり、部屋別収集を実施して誰が出したか分かるような仕組みにして、ごみ出しがきれいになり管理者からも好評とのことだ。これを受けて小金井市も一部取り入れているようだが、お互いに良いところを取り入れることが必要だと思う。</p>
鈴木委員	<p>学生マンションがこの方式で出すので、徹底されて非常にきれいだ。</p>
植村会長	<p>この施策については確かに小金井市では、まだやっていないことなので、今後、特に集合住宅では管理者を置くとか管理台帳を作るとかで大きく前進出来るかと思う。</p>
佐野委員	<p>小金井市の住民の約6割は集合住宅に住んでいる。きれいなところはどうか、きれいなのか、悪いところは何が悪いのか、やれる方法を色々考えてみるのが大切だ。誰にどうやってアプローチするか、きめ細かに考えることだ。</p>
加藤委員	<p>西東京市によると、短期単身者の集合住宅では、短期間で転出入者が生じるので大変だということだ。全てこれが100%良いということではないが、一つの先進例である。</p>

審議過程（主な発言等）

植村会長	<p>大変貴重な提案であるが、急に導入は難しいかもしれない。一度制度が確立すれば後は効率が上がるので、今のようなそれぞれの住宅の状況も管理の仕方等考慮しつつ、どういう風な進め方が出来るか、今後検討課題で進めるということではいかがか。事務局のほうでも、先進事例もあるということで、一挙には無理かも知れないが順番に導入していくような可能性を検討して頂けるか。</p>
今井課長補佐	<p>検討する。</p>
多田岳人委員	<p>分譲マンションや短期のゲストハウス・単身学生向けのマンション等、各物件にはそれなりの対応があると思う。全部同じではなく、それぞれの物件別に想定問答集のようなものを作ったほうが良い。</p>
植村会長	<p>物件別に対応を細かく検討していくことは重要だと思う。</p>
勝又委員	<p>新たに実施する施策のところ、リユース食器の貸し出しについて書いてあるが、前回私はマイ食器を持って来る等の提案をしたほうが良いのではないかと話した。大きくは難しいかも知れないが、自治会やサークル活動等で呼び掛けて欲しいということ、市の方でも声を掛けていくことは大事なことだと思うので重視して頂きたい。</p>
加藤委員	<p>昨日、私の町会で餅つき大会をした。豚汁が600食以上出たが、全部ワンウェイの使い捨ての食器を使った。800人くらい来るので、割り箸の量もかなりの量になった。リユース食器があると良い。</p>
植村会長	<p>リユース食器を貸し出すことは、大量にある場合には、発生抑制に大きな効果が出ると思う。自分で持って来た食器で食べるということが常識になれば良い。祭や餅つき大会等で市が呼びかける場所を作って貰えるか。</p>
今井課長補佐	<p>実際にやれるかどうか分からないが、例えばご協力頂ける自治会やサークル等でイベントの告知をする時に、マイ食器も合わせて推奨出来るような文言を入れて頂くとか、そういうことを考慮して事業内容を練って頂きたい。</p>
植村会長	<p>まず、1頁目、昨年度は新たに実施する施策から25年度は継続させる、充実させる施策ということで、それぞれ移行の理由等が先程提案された。まずは、昨年度新たに実施する施策で今年度継続させる施策であるくつ・カバン類については資源の有効活用を推進していく。それから、東京学芸大学との連携でキャラクターを利用して啓発活動を充実させるということで出張・広報等を開始したところであるが、これを更に充実させ知名度を深める。更に、まだまだ活用の機会が少ないので、これからイベント等で活用していく。この二つについて、ご意見等があれば言って頂きたい。</p>
佐野委員	<p>今のところだが、誰がどのようにやろうと計画しているのか。市の職員</p>

審議過程（主な発言等）

<p>植村会長</p>	<p>だけで出来ることは限られているので、色々な人に協力してもらおう施策を考える必要があるのかどうなのか、委員の皆さんのご意見を伺いたい。</p>
<p>今井課長補佐</p>	<p>これを具体的に私たちが何らかの形で取り組むことが出来るようなことがあるのか。25年度に充実させる施策としてのキャラクター使用を充実させる手段とはどのようなものか。</p>
<p>植村会長</p>	<p>今、制度化に向けて鋭意検討を進めているところである。例えば、啓発DVDの貸し出しを考えている。貸し出しを行うことで、借り受け人の団体の方で活用して頂いても良いし、市の出前講座の受講者として申請頂いても良い。出前講座は既に何件か受けており、そういった取り組みを広げていく。市の方としては、施策を用意させて頂いて、そこに関連するソフトの部分、皆さんの参加が良いのか、市の方が赴くのが良いのか、そういったことを含めて多様な対応を進めていきたい。</p>
<p>今井課長補佐</p>	<p>市内の各イベント時にとあるが、これは従来のイベントでは、どういふところが検討されてきたのか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>本年度の実績では、東京学芸大学で行われた青少年のための科学の祭典、並びに10月に行われた市民まつりで実績がある。その部分については継続していきたいと考えている。</p>
<p>今井課長補佐</p>	<p>そうするとDVDは、もう貸し出して頂けるのか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>今、準備中である。</p>
<p>今井課長補佐</p>	<p>いつ頃になりそうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>近々に対応させて頂く。</p>
<p>今井課長補佐</p>	<p>町会での集まりの時に、これまで消防や地域包括センターの人に来てもらって話を聞いているので、こういう時にDVDを上映したり、雑がみ袋も知っているようで案外知らないの、講座を設けてもらえればより充実するかと思う。</p>
<p>植村会長</p>	<p>貸し出しの要綱等について事務担当の方で鋭意努力しており、原案の方は出来つつある。後は細部の検証を行った上で、いつ公開出来るのかの段取りに入っているところだ。広く示すために市のホームページで動画公開も考えていたが、市のサーバーの関係で動画の公開までこぎ付けなかった。よって、DVDの貸し出しについては、早急に手配出来るよう努めていきたい。</p>
<p>植村会長</p>	<p>後は、佐野委員が言った皆さんに出来ることについてはいかがか。</p>

審議過程（主な発言等）

佐野委員	<p>これをどうやって上手く使っていこうかという時に、これを見せるだけでは効果が半分もない。それを見た結果、何を感じてどういう風な行動に結び付けるか、というところまでプログラムが出来ていると効果があると思う。そこまで行政側がやるのが無理なら、市民団体に投げるのもいいかと思う。</p>
今井課長補佐	<p>今、出前講座をしているが、例えば修学旅行に行く中学生を対象にして、他の自治体に行った時に、ごみの不法投棄をしてはならないというような社会科学習としての観点で講義を構築して欲しいとか、通常の小学校3・4年生が学ぶようなごみの出し方、ごみの処理のゆくえんについて説明して欲しいとか、各講座の依頼元と話をし、プログラムを構築しているところまで行っている。</p> <p>また、子供向けのDVDということで市の方で率先して宣伝しているが、高齢者から自治会で子ども向けに放映したい、高齢者が申請した場合、貸して頂けないのか、出前講座に来てもらえないのか等多種多様な問合せを頂いている。個別の対応についても行っていきたいと考えているし、実績もある。そういったところの広報の成果が十分出ていないところがあるので、そういったところも含めて鋭意修正出来る点、反省すべき点は反省していきたい。</p>
多田岳人委員	<p>毎年、この移行表を見ているが、これをやれば明らかに何トン減るということが分かっているような数値的な項目と啓発的な項目とが混在している。数値目標系と啓発系とに分けて記載して頂きたい。</p>
今井課長補佐	<p>先程佐野委員から同様の指摘があったが、会長と相談の上で資料の作り込みを検討したい。</p>
多田岳人委員	<p>今年は、新規だけを見ると数値目標系の減量は見えるが、これが小金井にとって最大の問題である可燃ごみに焦点をあてられてないのが残念である。</p>
植村会長	<p>新たな施策でそういうような大きな課題となっているものに直接取り組むような施策を私たちが提案出来るのが望ましい。</p>
多田岳人委員	<p>例えば落ち葉等でも、堆肥化にご協力いただける市内の農家の方々に手を挙げてもらい、それを使って出来た農産物を育てて格安で分けるというパートナーシップのまちづくりに繋がっていくのではないかと。また、町内会や自治会に遠心分離機を補助して貸し出して、そこに生ごみを投入して、水だけを下水に流すことでごみは減るのではないかと。</p>
植村会長	<p>遠心分離機を購入するというのは、水を減らすことで可燃ごみの重さをより減らし、燃やし易くするという点では、大変効果があると思う。堆肥のパートナーシップの話は、対応し得ると思う。長期的には、出来れば地元で地元の農家の方が引き受けて下されば一番良いことだ。それが地元</p>

審議過程（主な発言等）

<p>佐野委員</p>	<p>帰ってくることにできればこんなに良いことはない。長期的な面もあるかと思うがパートナーシップや遠心分離機について今後の検討課題として意見をお聞きしたい。</p> <p>また、事務局から話があったように、キャラクターについては各自治会や子供会等で活用出来るので、啓発活動としてどんどん貸し出しをして、積極的に借りてもらうことを進めることも必要だと思う。今後、広報を出すところで、是非、啓発の意図を強化して頂きたい、</p>
<p>植村会長</p>	<p>継続させる施策のウは、経済課との連携は考えられないのか。今までは、ごみ対策課が一生懸命やってきたが、どちらかというとな農業施策かと思う。農業振興計画にも、作った堆肥を使って年間50トンという計画は入っているが、他課と協力してやるというのは、馴染まないのか。</p>
<p>今井課長補佐</p>	<p>ウの市内農産物取扱店との連携ということか。生ごみで育てた農産物を安く売ることが出来るかどうかということになる。事務局の考えはどうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>現状として、今年、経済課で軒先販売の直売所マップを作成している。そこに食品リサイクル堆肥を用いている農家の路地販売店を掲載して貰えないかと話したことがある。しかし、直売所のマップ自体を更新したばかりで、今この段階で、載せることは出来ないという回答を貰った。それぞれの所管課で進めている事業のスケジュールが合わないという状況である。私たちが、農作物に関しては、農業委員会を所管している経済課という認識を持っているが、こういったところで横断的な業務が出来るのかを含めて、鋭意検討していきたい。</p>
<p>植村会長</p>	<p>経済課と双方で連携しないと、農業振興計画の50トンという計画は、絵に描いた餅になる。一方で堆肥を作るのは市民であり、ごみ対策課が中心にならざるを得ない。</p> <p>また、生ごみ減量化処理機器補助制度についてだが、ごみゼロ化推進会議でも論議になったが、申請者に対して今どういう風に使っているのか、止めているのかという調査をして対策を立てる必要があると思う。そうしないと、申請も下がるし、使用中止も増える。是非、検討して頂きたい。ごみゼロ化推進委員役員会の意見でもある。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>25年度は、継続させる施策から充実させる施策へという提案である。補助制度の申請も停滞しているので打開し、新規も増やし、購入後も継続使用出来るように稼働率を高める啓発をどうするか。</p>
	<p>生ごみ堆肥のことだが、全体のフローを整理する必要があると思う。中町の堆肥化実験施設では、そろそろ実験という段階を終えて、第一段階での評価を出して今後どうやって続けていくのか。そこでやっている活動は、減量することが目的なのか、減量とともに啓発活動するのが目標なのか。生ごみを乾燥してどう使うのかということも含めて整理した方が良い。</p>

審議過程（主な発言等）

植村会長	<p>生ごみの堆肥化のプロセスや補助制度について、どこかで評価をしなければならない。事務局の方で、その辺の現状を報告頂きたい。</p>
今井課長補佐	<p>まず、生ごみ減量化処理機器補助制度とは、家庭から排出される生ごみを自家処理するための生ごみ減量化処理機器を購入する者に対し、補助金を交付し、ごみの減量化を推進、併せて生活環境の保全を図ることを目的としたものである。継続的な使用を義務付けているところまでは市の方では定めていない。補助している約3,000件を対象に調査することは、市の財政事情を考慮すると、新たな郵送費等の予算付けが非常に厳しいので、難しいかと思う。そういったところ、全てを踏まえて、広報支援を行う形で使用方法を周知していき、使用することで得られる利点を知って頂く等に主眼を置いた施策を展開していきたい。</p> <p>また、食品リサイクル堆肥自体が実験事業なので評価していくことは必要かと考えている。その部分については慎重に検討していきたい。</p>
加藤委員	<p>中町の堆肥化実験施設は、平成18年10月に稼働して6年になる。庁舎建設問題が迫ってきていることもあり、今後どうするかということを検討せざるを得ない。</p> <p>また、土曜日や夏休みの生ごみの投入だが、ごみ減量の量は大了ことはないかと思うが、かなり啓発的な要素もあって、そこでごみや水切りの話題が出て、コミュニケーションが図られている。学校の理解もあって全国でも先進事例かと思う。ただ、これ以上増やせるかどうかということについては、市民参加が増えて中町の実験施設の処理能力に近付いてきたことや、日曜日に生ごみ投入を実施するとなるとボランティアの人の負担が増える等課題はある。</p>
植村会長	<p>生ごみ処理機をいかに充実させて継続して使用して使って貰えるような啓発活動を何らかの形でしなければならない。電気代等の問題点も指摘されているので、今後生ごみ処理機の推進活用、その前進ということに対応して、問題点で改良出来得ることがあるかどうか、今後、検討したい。</p>
竹内委員	<p>生ごみ処理機の補助の件だが、ごみ対策課として正式な数字を提示して欲しい。ごみ対策課は一体何を把握しているのか分からない。具体的にどうするのか、施策に書かれているこの文章では分からない。実態をよく掴んで成果をきちんと把握した上で、公表して啓発して欲しい。そうすると自分も参加していなかったがこれからは参加してみようという動きになる。</p>
佐野委員	<p>現場で活動している人をどうやって求めて、市の方に報告して、そういう市民協働の環境づくりをどのようにしていくか、そういう話に進まない市は何をやっているんだということになる。それをどうやって改善していくか。</p>
加藤委員	<p>ごみゼロ化推進会議では、3年位前にごみ対策課や市長にこういう改善</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>をした方が良いと具体的に提案したことがある。そのことについて答えを貰っていない。</p>
竹内委員	<p>食用油の回収についても同じだ。やっている自治会が提案しているが返答がない。他市ではやっているが、事例を挙げて、やり易くなる方法をコーディネートしてほしい。</p>
佐野委員	<p>本審議会で色々なことをやるが、行政としてはこの部分について市民協働はあり得ると考えているのか。</p>
植村会長	<p>関連するデータを整理することをよろしくお願ひしたい。市民協働については、市長の方針がかなり係ってくると思うので、確認をして頂きたい。</p>
今井課長補佐	<p>市の方針について、何らかのものをお示し出来る段階に至っていない。</p>
植村会長	<p>市民協働ということで考えると対策があると思うので、今後の検討課題にしたい。25年度の施策について他にいかがか。</p>
北沢委員	<p>生ごみ処理機補助制度というのは、どこまで増やしたら行きつくのかビジョンを教えてください。</p> <p>また、生ごみの堆肥化だが、目的・目標としてどのようなことを考えているのか。堆肥を使って作った野菜はおいしいのか。その辺の実験をやっているのか。小金井ブランドの野菜を作って、それをお店で提供することまで考えているのか。そのビジョンを示すと、市民もやる気になって、小金井の野菜を全国的に有名にしようとなり、堆肥も売れるし、その堆肥で作った野菜も売れる。そういったビジョンのもとでやっているのか。あるべき姿が見えないと参加しにくい。</p>
加藤委員	<p>一般論として、生ごみ処理機の普及については、全世帯の5%限界説というのがある。小金井は約55,000世帯なので、約3,000世帯で限界と言われている。小金井はどこまで普及するのかという目標がないままに予算計上している。こうした認識で良いか。</p>
今井課長補佐	<p>数値的な目標はない。</p>
植村会長	<p>野菜をおいしく出来るか検討しているのか。</p>
今井課長補佐	<p>生ごみ処理機の購入補助制度については、ごみの減量を目的としたツールの提供である。</p> <p>食品リサイクル堆肥については、有機性資源循環社会の構築の実験事業と位置付けている。確かに、この堆肥を使って育成した野菜がおいしいとか、経済性が高い等の理由を付ければ有用かと思うが、試して頂いている市内の農家からの声をお伝えすると、小金井市のような都市型農業においては二期作が原則である。二期作が原則の中で有機性資源に基づいた堆肥</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>を使うという形になると、農場の養分を蓄えるために農場を休ませることが出来ないことが大きな課題であると伺っている。化学肥料を使った農場運営というものが、都市型農場に向いているというところを否定しきれない。だから、こういった食品リサイクル堆肥を活用して頂ける農家は限られてくる。自分の持っている農地面積が非常に大きい方は使いやすいが、小さい方は使いにくい。そういったところを含めて採算性が取れるかどうか、事業を維持していくかどうか、今後の検証で明らかにしていくべき課題であるので、慎重に進めていきたい。</p>
植村会長	<p>農地の使用の仕方は、堆肥と違って難しい面もあるので、その点も考慮に入れて、長期的にどうするか考える必要がある。事務局は、堆肥を作った後、供給をどうするか等も検討事項として頂きたい。</p>
清水委員	<p>集合住宅に対する対応を決めようという、これは継続させる施策のキに残っているが、継続するのだろうか、テーマとして残すべきではないか。</p>
植村会長	<p>これまで、種々集合住宅の問題点が指摘されているので、25年度では新たに掲載しないようにしようということだが、掲載して充実させる方向で確認した方が良いという指摘だが、いかがか。</p>
(委員 各位)	<p>(良い)</p>
清水委員	<p>基礎データをしっかり整理することが大事だ。どういう対象者がいて、どういうことを考えなければならないかという基礎データを収集するという積極的な姿勢を取った方が良いのではないか。</p>
植村会長	<p>約6割が集合住宅ということなので、それに対する対応も大事だという指摘があったので、充実させる施策に入れて頂いてはどうか。</p>
今井課長補佐	<p>25年度の施策の位置づけにおいて、施策内容を変えずに継続するものについては記載しないという方針である。委員の指摘を踏まえ、文言の改訂を検討したい。</p>
佐野委員	<p>資源物回収計画について、今年度の実績を来年度の目標にするというアイデアが分からない。端的にいうと今年と同じことをするということか。</p>
植村会長	<p>同様な数量を目標にするということだ。この辺の根拠は何か。</p>
今井課長補佐	<p>あくまでも、廃棄物の減量に関する施策なので、資源化の量を増量させることに主眼を置いているものではない。少なくとも今年度並みの資源化収集を見込みたいという趣旨で提案させて頂いている。</p>
佐野委員	<p>ごみを減量するということは、資源の回収を増やさないで、ごみを減量させるということか。</p>

審議過程（主な発言等）

<p>今井課長補佐</p>	<p>先程、施策のところでも話したように、発生抑制がごみ減量の第一優先事項である。市の方で各資源化施策を展開しているが、資源化の量の増量を目的にしているのではなく、あくまでも発生抑制に重点を置いている。</p>
<p>植村会長</p>	<p>ともかく今回の施策では、従来やっていることを、更に充実させて実施出来るようにということが重点であり、ごみの総量の最初の出発を減らすことが目標である。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>私も発生抑制が第一だと考える。ただ、ごみ処理計画と資源物回収計画は分かりにくいところがある。</p>
<p>植村会長</p>	<p>数値目標については、最終的に何%にするか、次回検討したい。 集合住宅の項目については、文言の改訂を検討の上、充実させる施策とする。それ以外の新たに実施する施策、充実させる施策及び継続させる施策の提案内容については、平成25年度実施するということが良いか。</p>
<p>（委員 各位）</p>	<p>（良い）</p>
<p>植村会長</p>	<p>また、検討課題が多いことが分かったので、本審議会の開催日数だが、1回増と言うことを提案したい。</p>
<p>（委員 各位）</p>	<p>（リサイクルカレンダー選考結果確認）</p>
	<p>閉会</p>